

## 地域保健

[講義・実習] 第2学年 前後期 必修 3単位

《担当者名》専任教員 / 岡橋 智恵 / 大山 静江 / 千葉 利代 / 山形 摩紗

## 【概要】

学習した歯科専門領域の基礎知識をあらゆる口腔の健康状態にある対象に適用し、科学的根拠に基づいて必要な歯科保健指導を実践できる能力を養う。

## 【学修目標】

対象を口腔の健康レベルからとらえ、個別性に応じて必要な歯科介入を判断し、計画的に実践する過程を習得できる。  
 対象の多様な価値観を認め、円滑な対人関係を築くことができる。  
 基礎的な歯科保健技術を修得し、健康の保持・増進、疾病予防のために実践できる応用能力を習得できる。  
 臨床における歯科保健指導、公衆衛生現場活動における歯科保健教育の実施に向け、対象の把握、対象別指導法、対話訓練等を実践できる。  
 各種機関および施設での歯科保健指導を通して、対象者への理解を深め、口腔保健上の課題とその解決法を考察できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 12	学齢期における口腔保健（隣地実習） 1．児童に対する歯科保健行動と口腔保健 2．児童の口腔観察と口腔保健指導 3．学年別集団指導	講義・実習 「浦臼小学校」での臨地実習を含む。 対象の年齢に応じた口腔内の特徴を把握し、指導上の要点や指導方法を学ぶ。 フィールド（臨地）実習に向け、情報収集、問題の分析、目標の設定、計画書の作成、実践、評価ができる。 対象に適した指導計画を立案し、歯科保健指導内容を検討する。 各学年毎の教育媒体を作製。それらを活用して指導を実施できる。 グループ別実践を振り返り、評価する。	千葉 利代 山形 摩紗
13 ) 21	幼児期における口腔保健（媒体作製実習） 1．幼児に対する歯科保健行動と口腔保健指導 2．幼児の口腔内の特徴（今年度は情報収集のみ）	講義・実習 対象の年齢に応じた口腔内の特徴を把握し、指導上の要点や指導方法を学ぶ。 媒体作製に必要な対象者の情報をグループごとに収集した上で計画を立案する。 保健行動への動機づけができる教育媒体を作製する。 グループごとにビデオレターを発表し修正した上で幼稚園へ送付する。	大山 静江 山形 摩紗
22 ) 29	知的障がい者の口腔保健（隣地実習） 1．知的障がい者に対する歯科保健行動と口腔保健 2．知的障がい者の口腔の特徴と行動変容	講義・実習 知的障がい者福祉施設「幸生園」での隣地実習を含む。 施設の特徴、入所者の障がいの程度や生活状況等を知る。 知的障がい者を有する人々を総合的に理解し、支援者する上で必要な知識を習得する 施設職員による入所者へのブラッシング法の実際を見学し、口腔清掃の技術を修得する。	岡橋 智恵 千葉 利代
30	訪問歯科診療補助の実際	講義 加齢による身体的・精神的変化と疾患が説明できる。 高齢者の状態把握ができる。 在宅（施設）訪問歯科診療の概要を理解する。 訪問歯科診療時の歯科衛生士の役割を理解する。	植木 沢美 岡橋 智恵
31 ) 32	高齢者の口腔保健	講義 高齢者の身体的・心理的特徴を学ぶ。 高齢者の口腔内の特徴について理解する。 要介護高齢者への口腔衛生管理について理解する。	岡橋 智恵

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>口腔清掃用具について説明ができる。 保湿剤について説明ができる。 課題レポートを提出する。</p>	
33 ) 34	<p>高齢者の口腔保健 ・高齢者の口腔衛生管理方法（相互 実習） ・吸引器を使用した口腔衛生管理方 法（相互実習） ・義歯の取扱い</p>	<p>相互実習 口腔清掃用具の準備ができる。 高齢者の状態を把握する。 口腔内の観察ができる。 口腔衛生管理ができる。 保湿剤の取扱いができる。 課題レポートを提出する。</p> <p>相互実習 吸引器の取扱いができる。 感染予防に配慮した吸引器の片付けができる。 吸引器を使用しながら口腔衛生管理ができる。 患者の安全に配慮した対応ができる。 課題レポートを提出する。</p> <p>演習 義歯の種類、特徴について説明できる。 人工デンチャーブラークを使用して義歯清掃の方法 を習得する。 義歯清掃に使用する器具の説明ができる。 義歯清掃の手順が説明できる。 義歯清掃ができる。</p>	岡橋 智恵
35 ) 36	<p>高齢者の口腔保健 ・在宅療養者の口腔内管理</p>	<p>講義・演習 歯科訪問診療の器材準備について理解する。 情報収集の方法について説明できる。 情報収集の内容について説明できる。 口腔健康管理の手順について説明できる。 多職種連携について説明できる。</p>	岡橋 智恵
37 ) 38	<p>高齢者の口腔保健 ・ICF分類の演習</p>	<p>グループワーク ・事例から対象者の生活背景について考える。 ・対象者の情報をICF分類することができる。 ・分類をした情報から対象者の生活に必要な事項を考 察する。 ・情報の質と内容を考え情報不足を考えることができ る。</p>	岡橋 智恵

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

各臨地実習先での実習態度等（各施設25点評価×3施設）

要介護高齢者の口腔保健における演習とレポート（25点）

以上を総合的に判断する。

【教科書】

歯科衛生士にあるための臨地実習サポートブック 在宅療養者の口腔健康管理 デンタルダイヤモンド社

【学修の準備】

- ・各施設での実習の際は実習場所、実習日、実習時間、持ち物等を確認しておく。
- ・学外実習にふさわしい身装に整えておく。

【授業時間外学習】

予習：15分...各実習先の特徴を把握し、対象者のライフステージごとの特徴を把握しておく。

復習：15分...各実習後には実施内容、実習考察、所感をレポートに記入する。

【実務経験】

岡橋智恵・大山静江・千葉利代・山形摩紗・植木沢美（歯科衛生士）

( 2026年度・歯科衛生士専門学校 )

**【実務経験を活かした教育内容】**

臨床現場での実務経験を活かし、各施設で実施される集団指導や個別指導や高齢者施設の概要、口腔のケア、摂食嚥下訓練の講義・実習・演習を行う。